

# 佐賀建設新聞

発行所  
株式会社 建設新聞社  
〒849-0301  
小城市牛津町乙柳1145-7  
Tel. 0952-66-5750 (代)  
FAX 0952-66-5751  
購読料 月額5,940円(税込)  
毎週火・木・土曜日発行  
日本専門新聞協会会員

## 有明海再生の効果紹介

### 集水井戸施工事例発表など

### 日本建設技術(株)が研究成果発表会

日本建設技術(株)（本社・唐津市北波多、原裕社長）グループは8日、唐津シーサイドホテルで2017年度研究成果発表会を開催した。関連5社の社員、来賓など約170人が出席し、原社長が「2016年度のおゆみと



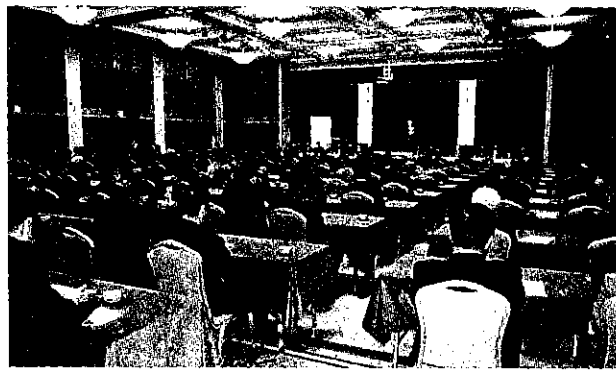
挨拶する原裕社長

建設業と農林水産業の連携シンポジウムで発表して」の演題で成果を発表した。また、建設&コンサルタント事業本部建設第2事業部の石原誠太郎課長代理が「集水井戸施工時の課題」について話した。発表会は毎年開催しており、今回で14回目。

冒頭、原社長は「建設業および建設関連業として請け負った仕事で高品質の製品を発注者に提供することが我々の使命であり、それによって会社の信頼が高まる。企業競争に勝

ち抜くためには技術力の向上が重要となり、技術力と営業力と現場が上手く連携し、バランスの取れた会社にするのが大切だと感じている。今年はさらにスマートな会社となるよう取り組みたい」と挨拶した。

成果発表では、企画開発戦略本部と総合情報技術事業本部の部長も務める原社長が16年度と同グループの活動内容を説明し、今年2月に東京の農林水産省で開催された建設ト



会場のような様子

催のシンポジウムで「ミラクルソルによる有明海再生と間伐材利用の軟弱地盤対策（ラフト&パイル工法）」について発表したことを報告した。

原社長は「有明海の底質改善では夏場における硫化物の生成が抑制され、ミラクルソル

を混合することとで台風などの自然災害による分級現象を緩和する効果があることを確認した。また、ラフト&パイル工法は地下水位以下に保持することで非常に高い耐久性を確保できる。間伐材を活用するので、地球環境にも優しい工法」と話した。

石原課長代理は多市区で施工した「鬼ヶ鼻地区2号集水井戸」の施工事例を取り上げ、深度57分の集水井戸施工の状況などを説明した上で、「着手前の施工計画で問題点を把握し、発注者と事前協議

を十分に行なったことで、工期の短縮や高評価につながった。今回の工事が無事故・無災害で完成できたのは現場従事者や地元住民の理解と協力のおかげ」と述べた。

最後に佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之センター長が「研究成果発表会も14回を迎え、継続できることが素晴らしい。脳科学の学者が報われる努力をすべき」という考え方を提案しており、そのための目標を立てて取り組む必要がある。違った発想を持つて、会社や自分の仕事を見つめ直すことも大切」と研究発表会の講評を行った。

このほか、功労者表彰や新入社員紹介があり、会場を移して懇親会も行われた。